

# 放送教育だより 第60号

## 東北・北海道地区

○第75回東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会 北海道大会

期日：令和5年10月26日(木)・27日(金)

会場：カナモトホール（北海道札幌市）

4年ぶりに対面開催された研究協議会では、「放送視聴票の適正な分量と内容」「計画的、継続的な放送視聴の活用に係る取組と課題」について重点的に、コロナ禍での運用の振り返りも含め各校の現状共有と議論が行われた。

それぞれの学校が根拠を持って粛々と制度利用しているなかにおいても、生徒提出物の質に対して悩みがあったり、スクーリング出席との関係をどのようにしていくのがよいか検討が続いていたり、細かく見ると各校さまざまな面で苦慮している様子がうかがえた。また、減免適用の解釈や視聴票の評価方法など、運用が学校によって大きく異なるものもあり、通信制高校全体でどうあるべきか、参加者間で問題意識として共有されたように思われる。

放送視聴を取り入れた学習に今後役立ちそうなものとして、NHK 高校講座ホームページのリニューアルに伴う新機能や、学習支援システム導入事例などの紹介や意見交換も活発に行われ、生徒の学びをよりよく支えるため各校真剣に模索している姿が印象的であった。あっという間の2時間半で、議論しきれない話題も多数あったが、それぞれが持ち帰った課題は、各校での議論を経て、次の協議会で前向きな提案につながっていくものと期待される。

(放送教育研究委員 森山 了一)



# 関東地区

## ■令和5年度 関東地区放送教育研究会

- 相談役 : 森川 覚 (NHK学園高等学校 校長)
- 委員長 : 山崎 秀樹 (東京都立一橋高等学校 副校長)
- 副委員長 : 伊藤 政幸 (千葉県立千葉大宮高等学校 副校長)
- 委員 : 矢島 直人 (栃木県立宇都宮高等学校 教諭)
- 委員 : 松本 一則 (栃木県立学悠館高等学校 教諭)
- 委員 : 藤澤 さとみ (埼玉県立大宮中央高等学校 教諭)
- 委員 : 宗友 雅輝 (東京都立一橋高等学校 主任教諭)
- 委員 : 川合 広太郎 (NHK学園高等学校 統括教諭)
- 委員 : 森山 了一 (NHK学園高等学校 統括教諭)
- 委員 : 大澤 浩祐 (神奈川県立横浜修悠館高等学校 教諭)
- 委員 : 山崎 久登 (東京都立砂川高等学校 教諭)
- 教育部専任部長 : 櫛田 晃 (NHKエデュケーショナル)

### 1 委員会開催日時・議事について

- 第1回 5月12日(金) 午後3時から5時まで
- ・令和5年度放送教育委員事務分担について
  - ・令和4年度活動報告案について
  - ・令和5年度活動計画について
  - ・第75回全通研 京都大会の参加について
- 第2回 6月2日(金) 午後3時から5時まで
- ・第75回全通研 京都大会の分科会運営について
  - ・各地区通研大会への派遣について
  - ・7地区放送教育研究委員長を交えての情報交換
- 第3回 6月30日(金) 午後3時から5時まで
- ・全通研京都大会のまとめ
  - ・各地区通研大会への派遣について (最終決定)
  - ・放送教育研究委員会研修について
  - ・「放送教育の手引き」の改訂について
- 第4回 11月10日(金) 午後3時から5時まで
- ・7地区放送教育研究委員長を交えての情報交換
  - ・NHK高校通信教育委員会への要望まとめ
  - ・「放送教育だより」「放送教育研究」の原稿依頼
- 第5回 1月19日(金) 午後3時から5時まで
- ・各地区通研大会の報告
  - ・1年目研究委嘱校;進捗状況(中間報告向け)
  - ・2年目研究委嘱校「放送教育研究」の原稿依頼 第75回広島大会分科会での発表等について
  - ・本年度の活動のまとめ
  - ・次年度の体制について

### 2 活動報告について

- 「放送教育委員会だより」60号発行(3月予定)
- ・委員長が集約 内容:各地区通研大会の放送教育分科会の研究内容の集約
- 「全通研放送教育研究」42号発行(6月)
- ・NHK学園担当 内容:全通研大会発表予定校の研究報告、地区通研放送教育研究委員の活動状況報告

## ○全通研京都大会 6月15日(木)・16日(金)

### ・研究協議会 第5分科会【放送教育】

(近畿地区) 向陽台高等学校 教諭 住田 靖弘

「本校(向陽台高等学校)でのEdTech展開における放送教育題材に類する題材の活用について  
～問題の背景と取り組みの現況～」

(関東地区) 栃木県立学悠館高等学校 教諭 松本 一則

「生徒の自学自習を支える効果的な放送教育の実践」

(関東地区) NHK学園高等学校 教諭 鈴木 祐

「NHK高校講座における放送教育の研究—スモールステップ法導入による学習効果」

・指導助言者 早稲田大学人間科学学術院 教授 森田 裕介 先生

## ○各地区通研大会への委員派遣

- ・四国地区通研大会 7月6日(木) 松本 一則 委員
- ・関東地区通研大会(厚木大会) 9月29日(金) 全委員
- ・中部地区通研大会(金沢大会) 9月19日(月) 大澤 浩祐 委員
- ・中部地区通研大会(松坂大会) 9月20日(火) 山崎 久登 委員
- ・中国地区通研大会(鳥取大会) 10月10日(火)・11日(水) 矢島 直人 委員
- ・東北・北海道地区通研大会(札幌大会) 10月26日(木)・27日(金) 森山 了一 委員
- ・九州地区通研大会(鹿児島大会) 11月16日(木) 17日(金) 藤澤 さとみ 委員

## ○関東地区高等学校通信制教育研究大会(神奈川大会)

- ・9月29日(金) 午前11時から午後4時まで 神奈川県立厚木清南高等学校  
放送教育第3分科会太田フレックス高等学校 教頭 小林 美穂 先生  
「本校通信制における放送教育の現状」

・指導助言者 星槎大学 准教授 土岐 玲奈 先生

## ○NHK高校通信教育委員会 11月20日(月) 午後1時から3時まで

- ・ZOOMによるWEB会議に出席し放送教育研究委員会の今年度活動内容を報告した。

## ○番組委員会

- ・「NHK高校講座」番組委員について、2名を推薦した。

## ○研究委嘱校

- ・令和3年度～令和4年度 (令和5年度全通研京都大会発表校)  
近畿地区: 大阪府向陽台高等学校  
関東地区: 栃木県立学悠館高等学校
- ・令和4年度～令和5年度 (令和6年度全通研広島大会発表校)  
中国地区: 鳥取県立鳥取緑風高等学校  
中部地区: 長野県長野西高等学校
- ・令和5年度～令和6年度  
四国地区: 香川県立高松高等学校  
近畿地区: 奈良県立大和中央高等学校

### 3 関東地区高等学校通信制教育研究大会（神奈川大会）放送教育 第3分科会 報告

○日時：9月29日（金）午後1時20分から午後3時10分まで

○会場：神奈川県立厚木清南高等学校 4階 S45教室（S棟）

○研究協議：発表テーマ「本校通信制における放送教育の現状」

- |      |                |    |           |
|------|----------------|----|-----------|
| ・発表者 | 太田フレックス高等学校    | 教頭 | 小林 美穂 先生  |
| ・司会者 | 栃木県宇都宮高等学校     | 教諭 | 矢島 直人 先生  |
|      | 埼玉県立大宮中央高等学校   | 教諭 | 藤澤 さとみ 先生 |
| ・記録者 | 神奈川県立厚木清南高等学校  | 教諭 | 中島 大輔 先生  |
| ・会場係 | 神奈川県立横浜修悠館高等学校 | 教諭 | 大澤 浩祐 先生  |

○指導助言：星槎大学 准教授 土岐 玲奈 先生

「本校通信制における放送教育の現状」という発表テーマで、太田フレックス高等学校 教頭 小林美穂 先生にご講演をいただきました。

令和2年度から4年度までの状況において、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の下、「NHK高校講座」の視聴によるスクーリング以外の学習機会の確保について説明があった。また、放送教育によるスクーリング時数減免についても学校独自の流れについて説明があり、参考となる発表でありました。スクーリング出席時数の補てんのために利用され、生徒の単位修得につながる一方で、「スクーリングへの出席を優先すべきである」という意見もあり、課題は残されているということでした。

生徒へのアンケートから、放送視聴による学習は、生徒の意欲を向上させる有用な手段であることから、今後、更なる有効活用方法を検討していくことが課題なのではないかと考えさせられました。不登校、集団での活動が苦手な生徒にとっては、放送視聴による学習をもってスクーリング出席代替できることが学びの継続につながるのであれば、教育効果が期待できると感じました。

発表後は、質疑応答が活発に行われ、有益な情報共有ができました。また、星槎大学 准教授 土岐玲奈 先生から、「通信制高校における教育の現状と課題」について指導助言を受け、今後の可能性を模索する上でとても参考になりました。

（放送教育研究委員長 東京都立一橋高等学校 副校長 山崎 秀樹）

## 中部地区

### ○第74回中部地区高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会 石川大会

期日：令和5年9月19日（火）・20日（水） 会場：石川県文教会館

中部地区高等学校通信制教育研究会の総会並びに研究協議会（石川大会）は、1日目の午後に開会式・総会・研究協議会（分科会）、2日目の午前に全体協議会（分科会報告・研究発表）、記念講演、全通研からの報告・閉会式（諸連絡）という流れで行われた。

1日目の第3分科会（放送教育部会）では、以下の2校の先生方の研究発表があり、発表直後に放送教育委員から短く助言したほか、発表者・参加者で熱心に質疑・応答が交わされた。また、放送制作現場からの声としてNHKエデュケーショナル教育グループ専任部長にご講話いただいた。

#### 1. 「オンライン添削システム『添削くん』の開発」

（長野県長野西高等学校・久保田 文彦 教諭）

本研究の第一の目的は、通信制高校におけるレポート学習に的を絞って、教員による配布及び添削後の返却、生徒による回答作成後の提出が効率的に行える、ICTを活用したシステムを提示し、構築することである。その使用に際しては、特段の研修を必要とせず、教員も生徒も自然に使用できるシステムを目指している。また、そのシステムの有効性を検証するとともに、生徒が学習において使用する2種類のメソッド、すなわち「(ペンで)書く」と「(キーボードを)打つ」の違いが、学習にどのような効果をもたらすのか、そしてその学習の成果が社会生活にどのように関わるのかを検証することを第二の目的とする。

「添削くん」では、生徒のレポート提出と、添削者のレポート返却在、添削画面上のボタン1つとなる。素早いフィードバックは添削学習における更なる学習効果を期待できる。提出・返却をへて増えていったレポートは、表示を自由に変更できる機能により、ポートフォリオとしての役割も果たす。生徒は「レポート添削状況」の一覧表の表示をみて自分の進捗状況を確認する。それに加えて、システムにメールアドレスを登録しておけば添削者から返却されるたびにメールが自動配信される機能なども付けていて、添削者のフィードバックに対する生徒側の即座の反応を可能としている。

レポート課題は添削者によりPDFファイルで準備され、システム上にアップロードされた状態で置かれる。生徒はダウンロードしてそれに取組み、システム上で提出する。学習者および添削者はともに、HTML5に対応したブラウザを搭載しておりペン入力を可とするタブレットまたはコンピュータを要する。スマートフォンでもシステムは扱えるが、表示画面が狭く、書くことなどにはやや不向きである。指先やマウスで字を書くことも出来るが、添削者には特にスタイラスペンを推奨している。工夫として、添削者は、再提出レポートを添削するときは字の色を前回の添削時と変えてペン記入し、再提出（不合格によるレポートの提出・返却のくり返し）時における指導の積み重ねを見やすくすることもできる。キーボード入力機能もあるので、添削アドバイスを打ち込むことも可能である。開発者としては、生徒が「(ペンで)書く」ことの学習効果もあると考えて、ペンで書ける機能を付けている。書くことと入力することの取組みの意義や是非について、検証するつもりである。

本発表では「添削くん」のページなどを実際に見る機会があり、具体的な資料を通じて、システムに対する理解を出席者は深めることができた。

今後は、学習コンテンツ閲覧機能（NHK高校講座やYouTubeなどの動画配信サイトをシームレスに閲覧でき、学習に活かせるようにするもの）、オフラインレポート作成機能、半自動添削機能（正

解が一つである穴埋め式問題などで可能)といった機能を追加予定である。なお、NHK高校講座をシームレスに画面表示するために必要なインターフェース(API)の公開は未定であると、NHKエデュケーショナル様より分科会会場でご回答いただいている。ただし、もし実現すれば、レポート課題を細分化して学習を進めるスモールステップ法に近い学習環境の構築にも有用であることは間違いない。

「添削くん」はまだ実用段階に至っていないとのご報告であったが、更なる進捗状況と成果の報告は令和6年度の全通研広島大会の第5分科会(放送教育)で発表される予定である。実際に「添削くん」で提出などをした生徒の様子や感想、他校での普及など、どのように報告されるか、今後も気になるところである。

## 2. 「ICT 機器を利用した学習支援方法の研究」

(岐阜県立華陽フロンティア高等学校・青谷 勇祐 教諭)

華陽フロンティア高等学校では、MetaMoji と manaba の活用により、前者のシステムで生徒は「レポートの電子提出」、教員は「授業動画の配信」、「面接指導への活用」を、後者のシステムで生徒自身が「出席数の管理」と「レポート評価の管理」を容易に行えるようにする取組みを始めた。

具体的には、生徒が紙媒体で購入し取組んでいるレポートの提出方法について、MetaMoji の機能を用い、生徒自身の判断で「PDF データに直接書き込んだものを送る」または「取組んだレポートページを写真で撮って送る」のでも可として、いわゆる電子提出もできる科目を増やしていく試みである。

R4年度後期に数学科の3科目で試験運用し、MetaMoji による電子提出を約2割の生徒が利用した。利用しなかった生徒を含め、事後アンケートでは、いろいろな科目で電子提出できるなら利用してみたいと答えた生徒が半数近くいた。R5年度は19科目に対象科目を拡大し、全体の2割弱の生徒が電子提出を選んだ。R5前期を受けてのアンケートの結果、電子提出の認知度がほぼ100%であったこと、やり方を分かったうえで生徒は提出形式を自分で選択できているであろうこと、新入学生徒の利用率が在校生と比べて高いことが報告された。学校としては生徒の反応をみて、対象の科目数を増やすなどしていく予定である。

既存のICT関連のシステム(MetaMoji と manaba は岐阜県として全県で導入済みであったシステム)運用を校内で拡大した実践であり、電子提出に関するノウハウの蓄積や授業動画の積極的な配信をしていこうとしているところは、今後の通信制高校全体の時勢と合っており、取組みの進捗などが全体にぜひシェアされていくべき実践である。

なお、放送教育の分科会での発表であったが、発表者からはテレビやラジオの「番組」の活用のほか、授業動画をつくり積極的な配信をすることなどが放送教育のあり方に合致すると捉えての発表内容とのことであった。NHK 高校講座の番組の利活用も十分に可能なので、今後も引き続き活かしていただければと放送教育委員からは伝えた。

## 3. 講話「『NHK高校講座』新ポータルサイト解説」

(NHKエデュケーショナル教育グループ・榎田 晃 専任部長)

同サイト内で付加された新機能についてご指導いただいた。動画を探す機能や、マイプレイリストの作成方法、再生開始と再生終了の時間を指定してのURLコピーとその活用法など、今後の番組の更なる活用についてご助言いただき、参加者からの質問にも熱心に答えていただくなど、学び多いものとなった。

(文責：放送教育研究委員 大澤 浩祐)

## ○中部地区放送教育研究委員会

中部地区の放送教育研究委員会は、下記の通り行われた。NHK高校講座の各校の利用状況や、動画コンテンツの作成法などについての情報交換のほか、高校講座の具体的な活用法についての発表・講演もあり、有意義な会となった。

実施日：令和5年10月10日（火）

会場：三重県立松阪高等学校（松阪市）

協議内容：

### （1）運営協議事項

ここでは、①放送教育研究委員会の当番校の確認、②令和6年度版「放送視聴のすすめ」リーフレット編集、③各校の放送教育の現状、の三点について協議が行われた。

### （2）研究協議事項

#### ●各校の放送教育の現状について

ここでは、アンケートをもとに各校の現状について情報を交換した。またNHK高校講座への要望についても協議した。要望としては、理解度チェックの問題数を増やしてほしいというものや、放送視聴用の提出票を準備できないか、といった意見が出されていた。また、各校の取り組みでは、NHK高校講座にない科目など、独自に動画を作成している学校があり、その手法について紹介された。

さらに、会場校である松阪高等学校の寺田義剛氏より「通信制の強みと弱み」と題して、数学Iを事例に高校講座の具体的な活用法について発表があった。通信制では「受動的学習機会が極めて少ないこと」が弱みであり、それを解消する一つの方法として有効なのが高校講座であると位置づけられている。その上で、具体的な手法として「ピンポイント動画再生の三段活用法」などが紹介された。

高校講座の活用にあたっては、「手段が目的」になってしまうことがまある。今回の報告のように、「何のため必要なのか」を教員が明確に意識して、活用法を深く検討することは、全通信制の教員が心すべきことと感じた次第である。

#### ●講演「『NHK高校講座』新ポータルサイト解説」

NHKエデュケーション教育グループ専任部長 櫛田 晃 氏

新しい検索機能、マイ科目やマイプレイリストの設定方法、ピンポイント動画の再生方法などについて、詳細に説明をしていただいた。マイプレイリストは、マイ科目などと異なり、動画ごとに選択することができる。従って、より一人ひとりの生徒に応じた指導がしやすくなる。こうした設定はNHK高校講座のHPから行うことができ、大変便利である。これらの機能は、まだ通信制の教員に十分に周知されているとはいいがたく、このような会を通じて、多くの教員が学んでいくことが必要と感じられた。

（文責：放送教育研究委員 山崎 久登）

## 中国地区

### ○中国地区高等学校通信制教育研究協議会及び中国地区高等学校通信制放送教育協議会

期日 令和5年10月10日(火)、11日(水)

会場 鳥取県立生涯学習センター県民ふれあい会館

中国地区通研は鳥取駅近くの会場で2日間にわたり開催された。1日目は総会の後、全体会として「本校の現状と取り組みについて」というテーマで並木学院福山高等学校と鳥根県立浜田高等学校の発表があった。最後に地元企業の経営者による講演会で終了した。

2日目の初めに分科会が1時間15分で設定されており、第3分科会として放送教育は行われた。放送教育分科会は、初めに来年度全通研広島大会で発表する鳥取緑風高校の研究発表があり、その後発表テーマに関連した協議テーマについて事前に中国地区の各校にアンケートを行った結果をもとに協議を行った。最後の10分間指導助言という名目でお時間を頂いたが、NHK 高校講座のホームページの新機能の紹介と、その中で「ピンポイント動画再生」機能の活用例を示し、発表内容にあった課題に対して解決策の一つとして提案した。研究発表内容と協議内容の概略は以下の通り。

〈研究発表〉「生徒の自立した学習態度の育成をめざした NHK 高校講座の効果的活用」

発表校 鳥取県立鳥取緑風高等学校

鳥取緑風高校は今年で創立20周年を迎えた。生徒の状況として、在籍者数は年々微増しており学校が唯一の社会とのつながりである生徒が多い。それに対し、『対面でないとできない、対面だからこそできることを提供したい』という思いのもと、面接指導の出席条件や報告課題の取りませ方、平日の学習指導の充実を通して、85%前後の単位修得率を実現している。

研究の取り組みとしては、生徒が自主学習のツールとしてNHK 高校講座を活用できるように各科目の報告課題に高校講座の内容をもとにした問題を組み込むことを行っている。生徒の反応は上々であり、良い方向に変容が見られた。一方、課題も浮かび上がり広島大会に向けて残りの期間を取り組みたいとの発表であった。

〈協議テーマ〉

(1) NHK 高校講座の報告課題(レポート)での活用について

- ①各科目における設問の工夫とその具体例
- ②3観点での評価方法

(2)「総合的な探究の時間」でのメディア教材等の活用例

放送視聴に関しては、面接指導での活用や出席の減免措置として使用している学校はあるが、報告課題の設問としている学校は少数であった。総合的な探究の時間では、NHK 高校講座の視聴を初め、NHK for school、その他学校独自の映像教材や教材DVDの使用、Youtube 動画など各校で様々なメディア教材を使用していることが分かった。

(文責：放送教育研究委員 矢島 直人)

## 四国地区

### ○四国地区高等学校通信制教育研究協議会

四国地区通研大会の放送教育研究協議会が下記の日程で行われました。

期日： 令和5年7月6日（木）・7日（金）

会場： 徳島市あわぎんホール

発表者： 徳島県立徳島中央高等学校 森岡加奈子教頭先生、加川靖大先生

テーマ：本校におけるGIGAスクール構想推進に向けた取組みについて

発表者：香川県立高松高等学校 筒井美貴教頭先生

テーマ：放送教育における本校の現状と今後の課題について



四国地区通研は徳島県を会場に、2日間行われる四国四県定時制通信制教育研究競技大会の中で行われ、放送教育の発表は1日目の通信制部会の中で行われました。

四国地区通研の会務報告がなされたのちに研究発表が行われ、本年度は2つのテーマでの発表が行われました。

徳島中央高校は、GIGAスクールにおけるICT活用を考察しながらから放送教育をどのように展開してゆくかを、四国の学校にアンケートを依頼し、各校の状況や意見をまとめながら、自校での取り組みを紹介していました。

高松高校はテレビ・ラジオの放送を視聴することで生徒の学習意欲を高める、学力を高めるための考察を行っていました。視聴票を用いることで、生徒の意識を向上させられ、実際に利用する生徒の増加につなげていました。

四国地区通研では学校毎の状況や意見を徴集することで情報交換も行っており、放送教育の現状やGIGAタブレットの使用状況などの情報交換も行われました。

会に先立ち、NHKエデュケーショナル専任部長の櫛田様からはNHK高校講座の紹介がなされ、ホームページ上での便利な使い方などが伝えられました。今後の放送教育を考える上での参考となったようです。

栃木県立学悠館高等学校 松本一則

# 九州地区

## ○九州地区高等学校通信制教育研究会総会並びに研究協議会 鹿児島大会

期日： 令和5年11月16日（木） 15:10 ～ 17:00

令和5年11月17日（金） 9:30 ～ 10:40

会場： かごしま県民交流センター

発表者： 沖縄県立泊高等学校 名嘉毛 博幸 先生

司会： 長崎県立鳴滝高等学校 喜多 龍昭 先生

### 【発表】

主題：「放送教育～本校の現状と課題～」

#### 1. 学校概要

通信制課程と定時制課程（午前部・夜間部）の併設校である。協力校が離島の宮古島・八重島・久米島に1校ずつ設置されている。那覇市の泊本校では週1回のスクーリングが実施されており、日曜・月曜クラスの設定がある。宮古・八重山協力校では週1回日曜日に、久米島では週1回の木曜日と、不定期に火曜日スクーリングを実施している。

生徒の約7割は転編入生であり、さまざまな背景をもつ生徒が在籍、スクールカウンセラーが月2回、就学支援員が毎週日・月曜日に4時間ずつ来校し、生徒の学習や生活を支援している。

#### 2. 現状

##### <ICT 機器の活用>

設備面の充実（全教室での Wi-Fi 使用・プロジェクタまたは電子黒板の設置・全教員への iPad 配布等）により、授業実施時の資料提示や板書等にかかる時間が短縮され、机間指導や生徒とのやり取りを行う時間が確保できるようになっている。全職員と生徒へは Microsoft365 アカウントが付与されており、Teams による生徒への連絡や面接指導の資料配布・チャットでの質問受付や、作文の添削指導等も行っている。コロナ渦では YouTube の活用により各行事の YouTube 配信を行い、来場人数が制限される中でも多くの人に観覧機会を提供することができた。

離島協力校にも各1台の iPad が割り当てられ通信環境も整ってきたことから、スクールカウンセラーや就学支援員との面談なども、FaceTime を利用し行うことができている。

##### <放送教育について>

動画作成や配信は行っていない。一部教科担当が、復習や欠席生徒のために板書動画を Teams にアップロードしている。

生徒には「学習手帳」を通じて NHK 高校講座を活用しての予習・復習を促し、レポート冊子には面接指導の内容と NHK 高校講座の対応表を掲載、生徒が QR コードからライブラリーへアクセスできるようにしている。

放送視聴による出席免除を面接必要時数の10分の6まで認めており、視聴報告書（A4 両面印刷）の提出を求めている。生徒は、面接指導が重なるときなどに視聴報告書を利用することもある。

##### <生徒へのアンケートより>

勉強の際に生徒が利用しているものは主に教科書と面接指導で配布されるプリント類である。NHK 高校講座を視聴したことがある生徒は 61%、視聴経験のない生徒は 39%である。視聴したことのある生徒のうち、97%が役に立ったと回答している。NHK 高校講座を視聴する理由として、75%が出席免除、17%が自学自習と回答している。

NHK 高校講座を視聴しない理由としては、約半数が「必要がないから」と回答しており、「教科書と面接指導プリントで十分」「休んだことがないから」がその主な理由であった。

<分析>

教員の側には NHK 高校講座を活用し自学自習の質を高めてほしいという希望があるが、この教師側の希望は十分に適っておらず、今後レポートに NHK 高校講座を視聴したうえでの問を設定するなどの工夫が必要であると考えます。

<教員へのアンケートより>

「NHK 高校講座を面接指導で活用したことがありますか」との質問に対し、「ある」は 13%で、理科・家庭科・保健で動画の一部を視聴させている。それ以外の動画コンテンツとしては、指導書付属の動画等を短時間視聴させていた。

「NHK 高校講座を面接指導で使わない理由を教えてください」に対する回答としては、時間的制約に関するものが多かった。

<放送教育の活用促進に向けた課題と取り組みとまとめ>

限られた面接指導時間内で学習内容を十分に伝えることは難しく、生徒が NHK 高校講座などのメディアを活用し自学自習を効果的に行い、学び方を身につけ、学びを深めていくことができるようになるための支援が必要である。生徒のほとんどがスマホを持つ環境下で、個別最適な学びに向けて面接指導の在り方を再検討し、ICT 機器を活用した通信制での放送教育実践を積極的に研究する必要がある。

#### 【研究協議および情報交換】

発表校の事例や各学校への事前アンケート回答をもとに、活発な情報交換が行われた。

- ①視聴報告書のデジタル提出（OneNote 等）は検討しているか。
  - ・泊高校では現段階では検討されていない。ABC 採点アプリや OneDrive を使った返却ができないか検討している先生がいる。
- ②OneNote を使っている学校はあるか。OneNote 活用の種類等について知りたい。
- ③Teams を利用し、オンラインで直接授業参加することにより、生徒に変化はあったか。
  - ・一体感が生まれた、という感想あり（泊高校）
- ④オンラインで面接指導を行っている学校はあるか？
- ⑤レポートのデジタル添削について情報が欲しい。
- ⑥教員へのタブレット配布があるか、また活用のための教員研修は行われているか。
  - ・教員へのタブレット配布もまだなく、活用にいたっていない学校もある。
  - ・教員へは配布済み、生徒はスマホで対応している。
- ⑦NHK の高校講座はインタラクティブな内容にカスタマイズされる予定はあるか（生徒の視聴状況等を教員側が把握する、という意味で）。
  - ・NHK 榎田さんより「個人情報を取り扱うことができないので、NHK ではできない。」
- ⑧NHK 講座をスクリーニングで活用している例はないか。また 20 分番組のうちどのぐらいを視聴させるか。
  - ・「ピンポイント動画再生（HP の最初に、このページの使い方）というヒントが書いてある。また数値を入力して URL を作成する、というボタンがあるので、それをクリックすると URL が生成されるので、ご活用ください。」
- ⑨何をもち「放送教育」であるか、また何が「放送教育分科会」の目指すところであるのか。
  - ・誰でも無料で活用できる NHK のメディアを使って、いかにして生徒の力を高めていくか、というところ。教員がまず視聴し生徒に紹介する必要がある。

・「すらら」や「スタディーサプリ」などを利用している学校もあり

⑩特別な支援を必要とする生徒への視聴報告書は同じ様式を使用しているか（白い紙に書いてあるものが読みづらい、という生徒に対し、黄色い紙を利用する例など）

・罫線を細かくすると対応できない生徒がいたり、保護者からの要望があったりする場合もある。その場合は罫線の幅を広くしたものを使うなど、要望に応じて対応している。

・罫線の幅を広くするとともに白紙スペースを作るなど、幅広く使ってもらえるようにしている。

・別様式の視聴票は作成していないが、そのほか特別な配慮を要する生徒については、内容面で個別に対応している。

⑪視聴報告書について、体育などの実技系でも利用しているか。

・利用している学校としていない学校がある。視聴票が認められない科目などについては事前に周知しておく。

⑫他校の視聴報告書（実物）を見せてもらえるとありがたいのだが。

・今後持ち寄りなどを検討

○まとめとして

アンケートなどから、生徒がNHK高校講座を活用できるようになるか否かに関しては、教員側がスクーリング時に直接紹介したり動画を見せたりすることが、その後の生徒の活用度に大きく影響を与えるのではないかと推察される。限られた面接時間の中ではあるが、短時間でも実際にその場で生徒にスマホを開かせ、番組へアクセスする体験をさせることも有効だろう。そのほか講座の番組やICTの活用により、生徒の心理的ハードルを下げつつ、通信制においても協働的な活動を少しずつ進めることも可能である。

ICT活用については、教員側の研修充実・生徒への補助等の課題もあるが、効率的かつ効果的に指導を進め、生徒の自律学習を支援し学びの質を高め、同時に教員側の業務負担を減らすことも目標に、活用度を高めていきたい。

今回の分科会では、デジタルのレポート添削やオンラインでの視聴票提出などについての情報を求める声もあり、さまざまな事情を抱える生徒の存在や郵便料金の値上げ等通信教育をとりまく環境も急速に変化する中で、今後より一層のICT活用に向け、活発な情報交換が必要と考える。

（文責 放送教育委員 藤澤さとみ）